

## オフィス内の執務スペースに対する呼称の現状に関する研究

### A Study on the Current Terminology for Workspaces in Offices.

○羽布津舞衣<sup>1</sup>, 二瓶士門<sup>2</sup>, 佐藤慎也<sup>3</sup>

\*Mai Habutsu<sup>1</sup>, Shimon Nihei<sup>2</sup>, Shinya Sato<sup>3</sup>

This study analyzes office space naming and definitions through existing research and books, revealing inconsistencies. It suggests further research to establish unified, practical definitions for office design.

#### 1. 背景と目的

コロナ禍で働き方が変化し、オフィスの役割も多様化した。オフィス内の執務スペース(以下、執務スペース)の呼称や定義には曖昧さが残っている。本研究の目的は、既往研究を基に、オフィス内の多様なスペースに対する適切な呼称と定義を明確にすることである。本研究が、執務スペースの設計における基礎データを作成するための重要な指針となり、今後の研究や実践において共通の指針を提供することを目指す。

#### 2. 既往研究と書籍の定義の比較

##### 2. 1 研究の方法

本研究では、執務スペースの呼称およびその定義の一貫性や傾向を明らかにするため、既往研究と書籍の両方を対象に比較分析を行った。2. 2では、J-STAGE及び日本建築学会に掲載された論文を対象とし、特にオフィス内の共有スペースや個人スペースに関する呼称および定義に焦点を当て調査を行った。次に2. 3では、オフィス設計や空間に関する専門書3冊を対象とし、これらの書籍で使用されている執務スペースの呼称およびその定義を調査した。

##### 2. 2 既往研究での定義

執務スペースの呼称や定義を明確にするために、J-STAGE および日本建築学会の論文を対象に分析を行った。特に、共有スペースや個人スペースなど、多様な執務スペースの定義が必要であるため、ABW (Activity Based Working) についての論文、又はコロナ禍を経た2020年以降の論文に焦点を当てた。J-STAGE および日本建築学会の論文60件を調査した結果、執務スペースの呼称が記されていた論文は7件<sup>[1][7]</sup>であった(表1)。表1には、論文タイトル、発行年、執務スペースの呼称、及びその執務スペースの定義を記載し、年代順に並べている。表1より、各論文で呼称や定義が異なることが分かった。また、新型コロナウイルス

の流行前後における呼称や定義の比較も行った。新型コロナウイルス流行の収束後は、感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザと同じ「5類」に移行した2023年とし、前後での比較を行ったが、特段の傾向は見られなかった。

表1 既往研究の呼称及び定義

発行年	論文タイトル	呼称
2016	オフィスレイアウトにおけるABWの導入と働き方の環境変化に関する研究(その1) ABW導入によるソフト面・ハード面の変化について	・集中スペース・チームフレキシブルスペース・コラボレーションスペース ・ユーティリティパントリー・ロッカー・会議室・フォンブース
2019	ABWを導入したワークプレイスの環境満足度と作業効率	固定席スペース・籠リスペース・オープンスペース ・コミュニケーションスペース
2020	ABW導入による執務者のコミュニケーション行動変容	執務席・会議室・共有部・その他
2020	研究機関におけるフリーアドレス制及びABW導入効果に関する研究 ABWに基づくオフィス空間改修を通して	リフレッシュスペース・フリーアドレス席・ラウンジ・固定席・会議室 ・打ち合わせテーブル・打ち合わせコーナー・集中ブース・多目的スペース
2022	Iビルにおける汎用システムを活用したABWオフィスの性能検証 第1報 建物概要と空調システム概要	執務ゾーン・コミュニケーションゾーン・会議室・倉庫系
2023	執務者特性と室内環境評価及びABWにおける座席選択に関する研究	・執務スペース(固定席・ABW・会議室) ・コミュニケーションゾーン・個人ブース
2023	オフィスにおける執務スペースとマグネットスペースの分節・接続手法に関する考察 -コロナ禍前後のオフィスへの改修事例に着目して-	・執務スペース・閉じられたミーティングスペース・開かれたマグネットスペース・閉じられたマグネットスペース・廊下・その他

##### 2. 3 書籍の定義

次に、書籍における執務スペースの定義について分析を行った。対象とした書籍は、『オフィス進化論』<sup>[8]</sup>、『ON!OFFICE』<sup>[9]</sup> および『知的創造のためのワークプレイス計画ガイドライン』<sup>[10]</sup>の3冊である。これらはオフィスに関する書籍であり、各スペースの呼称が記載されていた。それぞれの書籍で用いられている呼称は表2、3及び図1に示した。

この分析の結果、書籍ごとに異なる呼称が使用されていることが分かった。また、発行年においてもそれぞれ、2005年、2009年、2013年と年代にばらつきがあり、既往研究と同様に年代ごとの傾向も確認できなかった。

1: 日大理工・院(前)・建築, 2: 日大理工・教員・建築, 3: 日大理工・教員・建築

表2 「オフィス進化論」<sup>[8]</sup>の呼称及び定義

呼称	定義
リフレッシュパーク	見ず知らずの人と出会い、お互いの人となりを知る場
クロッシングウェイ	予期せぬ人と出会い、異分野の情報を交換する場
プレストスペース	招集されたメンバーによる拡散会議の場
ワークショップルーム	招集されたメンバーによる創造会議の場
クロージングルーム	招集されたメンバーによる収束会議の場
ハドリングベンチ	周りの人と話ししながら作業する場
フラッシュポイント	一人で無心になれる場
ワークポイント	個人作業を行う場
シンクポイント	集中して作業できる場

表3 「ON!OFFICE」<sup>[9]</sup>の呼称及び定義

呼称	定義
つながり系	個人での負担を軽減し、組織で情報共有を促す
こもり系	個人作業に集中する空間
出会い系	情報や会話を通じて「出会い」の機会を増やす
会議系	

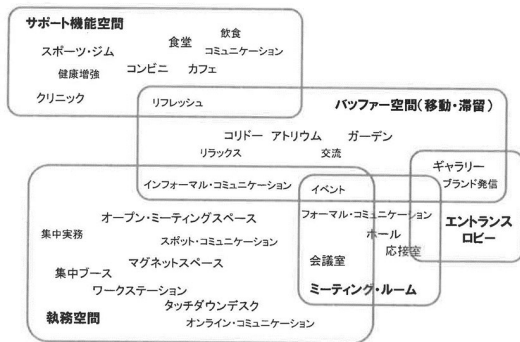


図1 「知的創造のためのワークプレイス計画ガイドライン」<sup>[10]</sup>の呼称及び定義

2. 4まとめ

以上の結果から、オフィス内の執務空間におけるスペースの呼称や定義について、既往研究および書籍の両方において一貫した傾向は見られず、統一された定義が確立されていないことが明らかとなった。

3. まとめ

本研究では、既往研究および書籍から執務スペースに関する定義や呼称に一貫性がないことが明らかになった。本研究で扱った呼称を「共有スペース」、「個人スペース」、「会議の場」の3つの項目に分類し、使用例の数を示した(表4)。「共有スペース」に関連する呼称が最も多く、種類も豊富であった。一方、「会議の場」では会議室が最も頻繁に使用されていた。

今後は、これらの既往研究を参考にしつつ、実測調査を行った企業の図面から各スペースを整理し、より統括的かつ実用的な定義づけを行う。

表4 本研究で扱った呼称

共有スペース (件)	個人スペース (件)
コミュニケーションゾーン	2
打ち合わせコーナー	1
打ち合わせテーブル	1
オープンスペース	1
共有部	1
クロッシングウェイ	1
コミュニケーションスペース	1
コラボレーションスペース	1
多目的スペース	1
チームフレキシブルスペース	1
つなぎ系	1
出会い系	1
パブファースペース	1
ハドリングベンチ	1
開かれたマグネットスペース	1
フリーアドレス席	1
プレストスペース	1
ユーティリティバントリー	1
リフレッシュスペース	1
リフレッシュパーク	1
ワークショップルーム	1

4. 参考文献

[1] 片山梨緒奈,大内田史郎:「オフィスレイアウトにおける ABW の導入と働き方の環境変化に関する研究(その1) ABW 導入によるソフト面・ハード面の变化について」,2016

[2] 篠山拓真,篠田純,中川純,田辺新一,高橋幹雄,和田一樹,高橋祐樹,野崎尚子:「ABW を導入したワークプレイスの環境満足度と作業効率」,2019

[3] 徳村朋子:「ABW 導入による執務者のコミュニケーション行動変容」,2020

[4] 澤修平:「研究機関におけるフリーアドレス制及び ABW 導入効果に関する研究 ABW に基づくオフィス空間改修を通して」,2020

[5] 杉原浩二,久保洋香,對馬聖菜,久保恵太郎,柴田万耶,岡知輝:「I ビルにおける汎用システムを活用した ABW オフィスの性能検証 第1報 建物概要と空調システム概要」,2022

[6] 柴田万耶,對馬聖菜,久保恵太郎,杉原浩二,久保洋香,岩田利枝:「執務者特性と室内環境評価及び ABW における座席選択に関する研究」,2023

[7] 堺皓紀,寺地洋之:「オフィスにおける執務スペースとマグネットスペースの分節・接続手法に関する考察 -コロナ禍前後のオフィスへの改修事例に着目して-」,2023

[8] オカムラ製作所 オフィス研究所 鯨井康志:「オフィス進化論」,日経 BP 企画,2005

[9] フィールドフォー・デザインオフィス:「ON!OFFICE」,株式会社エクスマレッジ,2009

[10] 一般財団法人建築環境・省エネルギー機構:「知的創造のためのワークプレイス計画ガイドライン」,丸善出版株式会社,2013